

12世紀まで弥勒寺・宇佐神宮の神社と寺という複合施設は国東半島の政治的権力の中心であった。17世紀の初期までには、国東半島の政治的支配は3つの領土に分割されていた。すなわち杵築、日出、そして中津である。徳川家康(1543—1616)は、1603年自分の支配下で国を統一したのであるが、忠実な家臣である細川忠興にその地域の支配権を与えた。忠興は自分の盟友と家族を3つの城に付かせることで支配を維持した。支配する氏族は何世紀にも渡る間に代わったが、それぞれの町は変わらないままであった。細川家の後、他の氏族達が、将軍への奉公と政治的功績に従いその地域の支配権を与えられた。